

台ヶ森焼のうつわを作ろう

協会の職員が、会員さまの職場にお邪魔して、ふだんのお仕事を見たりを見、実際に体験させていただきました。知っているようで知らない、見るとやるとでは大違い、そんな体験を通じて職員が発見したものとは…?

名付けて「物振協の社会科見学」。出発です!

教えてくださった方



百窯の里 七ツ森陶芸体験館
館長 安部 元博 さん

体験館の館長で二代目窯元。東日本震災復興時の薪窯修復の際、「莫迦焼締（ばかやきしめ）」という手法を発見し、うつわの経年変化が楽しめる製法を生み出したほか、最近ではスマートフォン用の陶磁器製スピーカー「陶響（とうきょう）」を開発し話題に。初代窯元から受け継がれた作風、技術を大切に、精力的に活動されています。

わたしたちが体験してきました！



職員 マツオカ

職員 かんの

事務局で企画担当
人生初の陶芸チャレンジに緊張です！
まずは不器用ですが、人生初めての陶芸チャレンジになります。何のお花を飾りたいですか？

取材の当日は、梅雨のなかとあって、小雨がぱらつく曇り模様でした。大和町へ向かう県道264号線は、北上するにつれ視界の緑が増えてゆきます。それもそのはず、大和町は町の65%が山林という、緑豊かな町なのです。さて、坂道をひたすら登ってゆくと、目的地に到着です。青々とした木々を背負うようにして高台に建つ「七ツ森陶芸体験館」。中へ入ると、台ヶ森焼のうつわや花器が並び、ここでお気に入りを購入することもできるようです。あちこちに目移りしながら受付でお約束の旨を伝え、奥の扉から案内していただきました。

ここで、今回体験のご指導をいただく、2代目窯元の安部元博さんが出迎えてください、ご挨拶。受付でご対応い

台ヶ森焼とは？

初代窯元の安部勝斎さんが、1970年ごろ吉田台ヶ森に3種の薪窯を築き、地域一帯の亜鉛鉱の粘土を釉薬にして造り上げた焼き物。地産粘土と灰を使用した「台ヶ森釉（だいがりゆ）」を主に生産しています。また、薪窯を用いた「焼締め」も造られており、こちらは薪の灰が自然釉となるため、味わい深い表情の作品が生まれます。



お伺いした場所



百窯の里 七ツ森陶芸体験館
黒川郡大和町宮床字高山120番地
TEL 022-346-2377 水曜休館
<http://www.daigamori.jp/>
体験は事前予約をおすすめします

七ツ森湖が目の前に広がり、緑に囲まれた環境で焼きものづくりの体験ができる「七ツ森陶芸体験館」。土でオリジナルの形を作る「手びねりコース」、素焼きの器などに彩色する「絵付けコース」などから選べます。体験館には地名に因んで7種の窯が設置されており、日本でも最多種なんだそう！

ただいたのは奥様でした。おふたりの温かいお人柄に、ちょっと緊張がほぐれた私たちです。広い中庭を囲んで立つ棟の軒下を進むと、「手作り体験室」の看板がありました。天井が高く広々とした室内に入れば、粘土の匂いと、木造のみなさまも職員と一緒に、「社会科見学」にお付き合いください！

